



腫瘍になりやすいのは？ 男の子？女の子？

■ 腫瘍疾患の発症率の年齢推移 (ゴールデン・レトリバー)

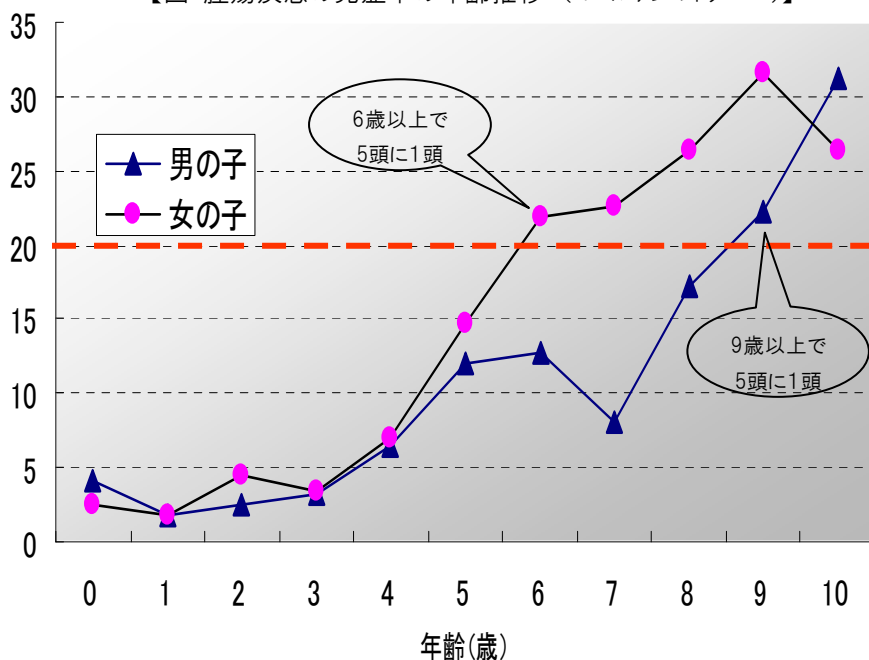
0～10歳の犬において、腫瘍の発症率※1を調査したところ、ゴールデン・レトリバーの腫瘍疾患の発症率は9.8%と、調査対象17品種※2のうち最も高かった(アニコム家庭どうぶつコラムvol.007)。そこで、ゴールデン・レトリバーにおける腫瘍発症率の年齢推移を、男女別に調査した。

男の子では9歳以上、女の子では6歳以上で、5頭に1頭以上のゴールデン・レトリバーが腫瘍で給付金請求をしていた。また、**6歳から9歳の間は、男の子に比べて女の子のほうが腫瘍発症率が高かった。**人同様、腫瘍疾患の中でも**乳腺腫瘍**が大きな割合を占めている可能性が考えられる。

※1 契約期間中に、腫瘍疾患で1日以上通院した犬を「発症した犬」とし、契約頭数に対して「発症した犬」の割合を算出。

※2 契約頭数の多い上位17品種で、全契約の84.4%を占めています。また、本調査では、mix(雑種・混血)を1品種として扱っています。

発症率(%) 【図：腫瘍疾患の発症率の年齢推移 (ゴールデン・レトリバー)】



歳	男の子	女の子
0	4.1%	2.5%
1	1.8%	1.7%
2	2.6%	4.5%
3	3.3%	3.5%
4	6.5%	6.9%
5	12.1%	14.8%
6	12.7%	21.9%
7	8.1%	22.6%
8	17.2%	26.3%
9	22.3%	31.7%
10	31.2%	26.5%

※ 2006/10/1～2007/9/30にアニコムクラブ「どうぶつ健保」と契約したゴールデン・レトリバーを対象に調査
 ※ 対象=5,605頭(男の子 2,773頭、女の子2,832頭)

**6～9歳では、
 男の子に比べて女の子の
 ゴールデン・レトリバーのほうが
 腫瘍疾患の発症率が高い。**

